

iStorage NS500Ri ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品を使用するときは、下記内容を確認し、記載された注意事項に従って対応してください。
また、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

■ 注意事項

● 本製品のマニュアルについて

「本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。
ご購入頂いた型番で、製品マニュアルをご検索ください。
<https://jpn.nec.com/istorage/>

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、
ESMPRO 日本語ポータルサイト<<http://jpn.nec.com/esmsm/>>
NEC サポートポータル<<http://www.support.nec.co.jp/View.aspx?isIntra=0&id=9010102124>>
の最新の情報およびバージョンをご確認の上、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。
Web に掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10.003.01 以降 を適用してください。
<https://jpn.nec.com/>
(「サポート・ダウンロード」－「ドライバ・ソフトウェア」－「iStorage NS シリーズ」－
「OS 関連」－「モデル名」で NS500Ri を選択)

● システムユーティリティおよびワンタイムブートメニューの表示について

1. BMC Configuration Utility 配下のメニューの変更権限については、BMC Configuration Utility > Setting Option > Require user login and configuration privilege for BMC Configuration を有効にすることで保護してください。
BIOS/Platform configuration (RBSU) > Server Security > Set Admin Password の設定では保護されません。
2. System Information > Processor Information で表示される L2 Cache、L3 Cache の Maximum Size、Installed Size は 1MB を 1024000 バイトに換算した数値で表示されます。

● Windows Storage Server OSを使用する場合の注意事項

装置を初めて使用する場合、あるいは、OS を再インストールした場合、装置からネットワークケーブルを外した状態で、本コマンドを実行してください。

本コマンドを実行しない場合、ネットワーク機能が正常に動作しない場合があります。

1. 「管理者より実行する」から Windows PowerShell を起動します。
2. 以下のコマンドを実行します。
>Set-NetOffloadGlobalSetting -NetworkDirect Disabled
3. プロンプト表示後、以下のコマンドを実行します。
>Get-NetOffloadGlobalSetting
4. 表示される画面で、NetworkDirect : Disabled となっていることを確認します。
5. システムを再起動します。

● 複数サーバーの共有フォルダーを統合する機能 (DFS) を利用する際の注意事項

DFS 機能を利用する際の、DFS 名前空間および DFS レプリケーションの作成画面において、サーバーや共有フォルダーを選択指定できない不具合があり、サーバー名や共有フォルダーパスを直接入力いただく必要があります。また、特定画面においては直接入力もできないため、PowerShell コマンドによる回避をお願い致します。

【直接入力いただく項目】

- ・ 管理者ガイド (詳細編) 「2.4.1.2 名前空間の新規作成」 手順 3
[新しい名前空間ウィザード]画面の名前空間サーバー名
- ・ 管理者ガイド (詳細編) 「2.4.1.3 名前空間でのフォルダーの新規作成」 手順 3
[フォルダーターゲットを追加]画面のフォルダーターゲット (共有フォルダー) パス名
- ・ 管理者ガイド (詳細編) 「2.4.3.2 名前空間での共有と公開」 手順 5
[名前空間の参照]画面のサーバー名

【直接入力いただけない項目】

- ・ 管理者ガイド (詳細編) 「2.4.2.2 レプリケーショングループの新規作成」 手順 4
[新しいレプリケーショングループウィザード]画面のレプリケーションメンバー名

上記の項目は、直接入力による回避ができないため、[新しいレプリケーショングループウィザード]を完了することができません。そのため、[新しいレプリケーショングループウィザード]において設定する内容につきましては、以下の手順で、PowerShell コマンドによる設定を行っていただきますようお願い致します。なお、コマンド例に記載している内容は、管理者ガイド (詳細編) 「2.4.2.2 レプリケーショングループの新規作成」に記載の内容と同等です。

1. レプリケーショングループの名前を設定します。
`New-DfsReplicationGroup -GroupName "group1" -DomainName "example.com"`
2. レプリケーショングループのメンバーとなるサーバーを設定します。
`Add-DfsrMember -GroupName "group1" -ComputerName "FILESV1", "FILESV2", "FILESV3" -DomainName "example.com"`
3. FILESV1をハブメンバー、FILESV2/FILESV3をスポークメンバーとした場合のメンバー間の接続を設定します。
`Add-DfsrConnection -GroupName "group1" -SourceComputerName "FILESV1" -DestinationComputerName "FILESV2" -DomainName "example.com"`
`Add-DfsrConnection -GroupName "group1" -SourceComputerName "FILESV1" -DestinationComputerName "FILESV3" -DomainName "example.com"`
4. レプリケーショングループのメンバーが使用するレプリケートフォルダー名を設定します。
`New-DfsReplicatedFolder -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -DomainName "example.com"`
5. 各メンバーにローカルのコンテンツパス、プライマリメンバー、読み取り専用を設定します。
`Set-DfsrMembership -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -ComputerName "FILESV1" -ContentPath "D:\DfsReplication" -PrimaryMember $True -DomainName "example.com" -Force`
`Set-DfsrMembership -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -ComputerName "FILESV2" -ContentPath "D:\DfsReplication" -ReadOnly $True -DomainName "example.com" -Force`
`Set-DfsrMembership -GroupName "group1" -FolderName "DfsReplication" -ComputerName "FILESV3" -ContentPath "D:\DfsReplication" -ReadOnly $True -DomainName "example.com" -Force`

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動から OS の起動完了までの間は、iLO の再起動を行わないでください。
また、システム ユーティリティの操作途中も、iLO の再起動を行わないでください。
該当タイミングで iLO の再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。
例えば、システムユーティリティの設定変更中に iLO の再起動(※)を行うと、
装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがあります。

〈 対象となる iLO の再起動の方法 〉

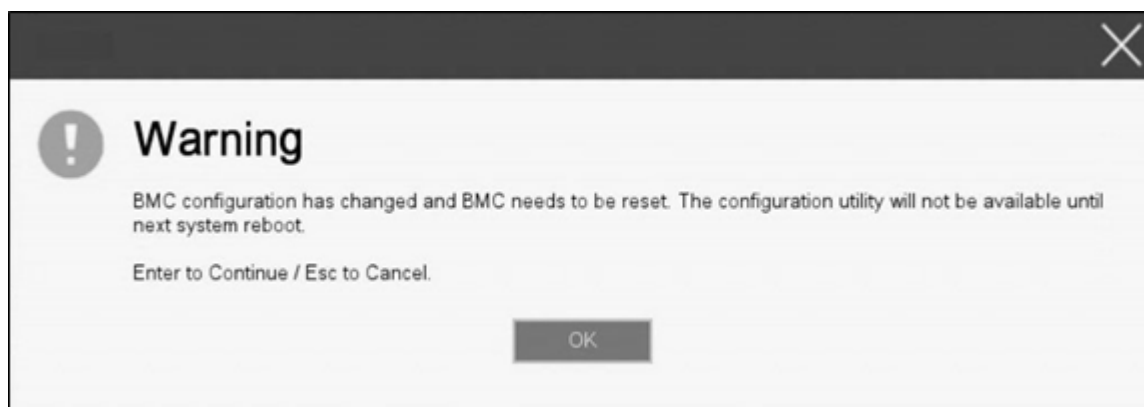
- iLO Web インターフェースなどを利用したネットワーク経由での iLO の再起動。
- UID スイッチ を使用した iLO の再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後の iLO の再起動については、
次項の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を
参照して操作してください。

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

iLO の再起動中に POST 実行や設定変更などの処理を進めてしまうと、装置に記録されている Serial Number、
Product ID などの設定情報を消失することがありますので、システムユーティリティの「BMC Configuration
Utility」での設定変更において iLO の再起動を行う場合は、以下の手順で実施してください。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、
iLO の再起動を行うために、次の Warning(注意)ポップ アップが表示されることがあります。



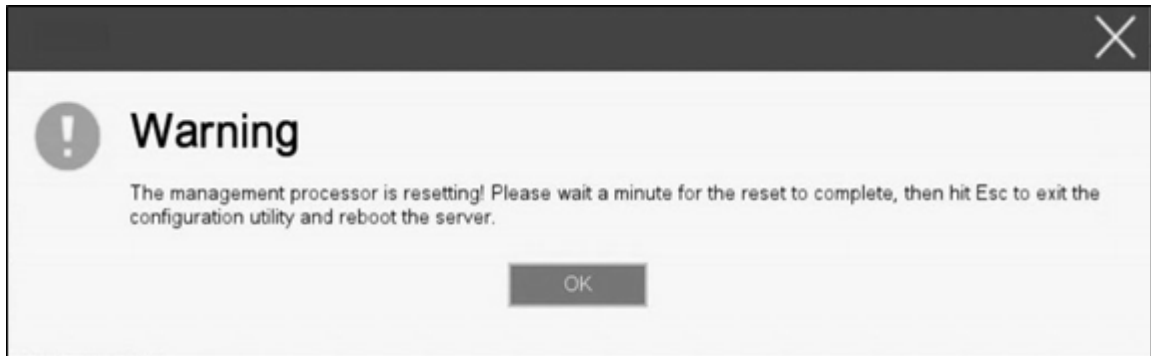
英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。

(3) 次の Warning (注意) ポップ アップの表示になり、iLO の再起動が行われます。



英語表示の場合



日本語表示の場合

(4) この Warning (注意) ポップ アップが表示されている状態にて、1分間お待ちください。

(5) iLO の再起動の完了を確認してください。

(6) 再起動の完了が確認できたら、「OK」ボタンを押してください。

(7) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。

(8) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

もし iLO の再起動の完了を待たずに先に進めると、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがあります。

なお、iLO の稼働状態は、本製品の本体前面にあるステータスランプから確認いただく事が可能です。

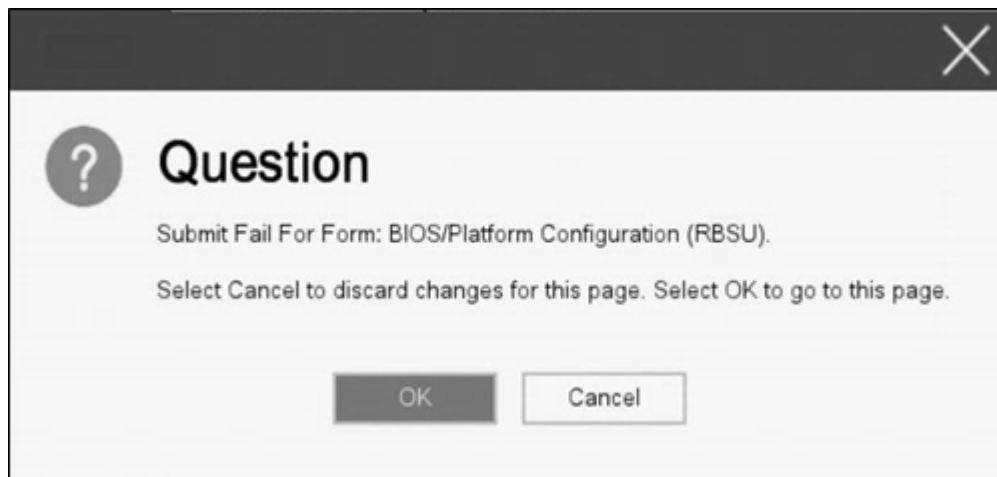
ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒 1 回) している場合は iLO が再起動中であることを示します。

ステータスランプが緑色で常時点灯している場合は iLO の再起動が完了し正常動作していることを示します。

● **Submit Fail For Form の Question(質問) ポップアップ表示についての注意事項**

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次の Submit Fail For Form の Question(質問) ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合



日本語表示の場合

● **Serial Number、Product IDが消失してしまった場合の対処について**

Serial Number、Product IDが消失してしまった場合、以下の手順にて復旧することができます。

- (1) 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
- (2) 30 秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
- (3) POWER スイッチで装置の電源を ON にします。
- (4) サーバーが起動し、POST 画面が表示されます。
- (5) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、メンテナンスガイド、「7.3.3 システム設定をデフォルト値に戻す」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU 設定の初期化をします。
- (6) システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial Number と Product ID の値を確認します。
- (7) Serial Number と Product ID の値が期待する値の場合は、手順 14)に進みます。
- (8) Serial Number と Product ID の値が期待する値ではない（消失している）場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
- (9) 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
- (10) 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
- (11) 自動的に装置が再起動し、POST 画面が表示されます。
- (12) <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。

(13) 装置のスライドタグに記載されている Serial Number と Product ID をシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。

(14) RBSU 設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、その RBSU 項目の確認と再設定をします。

● 赤文字画面 (RSOD: Red Screen of Death) が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合、OS 起動前に稀に赤文字画面 (RSOD) が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源 OFF/ON によって回復します。

赤文字画面 (RSOD) が表示された場合、装置の電源 OFF/ON をお願いします。

なお、問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。



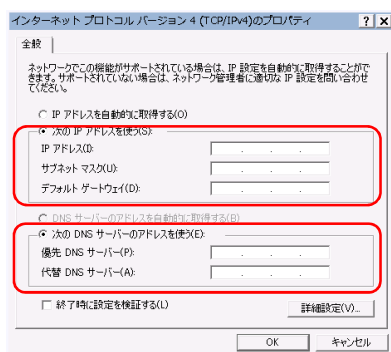
赤文字画面の例

● Windows Storage Server 2016環境構築後、CPUボードの構成変更を行う場合の注意事項

1) 次のOptionに固定IPアドレス/固定DNSを設定している場合、以下の手順で増設CPUボードを増設してください (CPU増設後も固定IPアドレス設定を引き継ぐために本手順が必要です)。

- N8104-173 10GBASE-T接続LOMカード (2ch)
- N8104-182 10GBASE-T 接続ボード (2ch)
- PCI-to-PCIブリッジを持つ増設PCIカード

- a) 該当のオプションを参照するサービスが自動起動しないように設定を変更し、サービスを停止する。また、該当のオプションにストレージを接続している場合、以下の作業前に該当のオプションからLANケーブルを外す等ストレージを認識しないようにする。
- b) 該当のオプションでLANのチーミング設定をしている場合、チーミングを解除する。
- c) 該当のオプションのIPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ/優先DNSサーバー/代替DNSサーバーを記録する (下記の赤枠部分)。



- d) 該当のオプションのIPアドレスを「IPアドレスを自動的に取得する」、DNSアドレスを「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」に設定変更する。
- e) 増設CPUボードをユーザーズガイドに従って増設する。
- f) 該当のオプションに手順c)で記録したIPアドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ/優先DNSサーバ/代替DNSサーバを設定する。
- g) LANのチーミングを再設定する。
- h) 手順a)で設定変更したサービスを自動起動するように再設定する。また、該当のオプションにストレージを接続していた場合、LANケーブルを再接続しストレージを認識できるようにする。



上記手順で行わなかった場合、固定IPアドレスが他のデバイスで使用されている等の

メッセージが表示されて固定IPアドレスが設定できないことがあります。

その場合、以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行して、デバイスマネージャを起動してください。その後、[表示] - [非表示デバイスの表示] をクリックし、ネットワークアダプタツリーを展開し、グレー表示になっている未使用のデバイスを削除してください。

```
>set devmgr_show_nonpresent_devices=1
>Start DEVMGMT. MSC
```

ESMPRO/ServerManagerでネットワークを参照した場合、増設CPUボードの構成変更後にネットワークカードが重複して表示されます。OS上で見えないネットワークデバイスの詳細は「Unknown」と表示されますので、無視してください。

● ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス (MG) に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス (MG) のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
Version 1.30 以上	Version 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成タブ - サーバ状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される ・ リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	Version 6.31 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・ アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のアップデート方法

- (1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver. 6 インストールガイド (Windows 編)」の「2章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象
 ※エクスプレス通報サービス (MG) をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
Version 1.30 以上	ilo_jp.mtb Version 1.1.0 未満 iml_jp.mtb Version 1.1.0 未満 ※iLO 管理機能向け の受信情報設定 ファイルは2種 類あります。	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートした場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル(ilo_jp.mtb、iml_jp.mtb)をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
 ilo_jp.mtb、iml_jp.mtb は MGMTB.zip に包含しています。
- (2) 「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。
- (3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド」は以下の URL からダウンロードしてください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

- ◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法
 サーバ本体の UID ボタンを押下して、サーバに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。
- ・ ネットワーク経由で確認する方法
 iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

- ◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager の WEB にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

- ◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス (MG) インストレーションガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● Windows Storage Server 2016 の運用における注意

Windows Storage Server 2016 運用において次のイベントログが登録される場合があります。
また、それに伴いディスプレイの解像度が、低解像度へ切り替わる場合があります。

<イベントログ>

ディスプレイ ドライバー MxG2hd064 が応答を停止し、正常に無効化されました。

日付 : 2017/06/08 20:32

ID : 4113

ソース : Display

レベル : 警告

この状態となった場合、解像度の変更はできない状態となりますが、それ以外の機能は正常に動作します。
復旧には、再起動が必要ですが、同様の事象を繰り返す場合は、Matrox GA ドライバを無効にしての運用をお願いします。

● データバックアップ時の注意事項

FC コントローラ配下に接続されたデバイスが誤って本体内蔵のマイクロ SD カードスロットとして認識されてしまう場合や、iStorage を接続しての自動バックアップ中に空の本体内蔵のマイクロ SD カードスロットを検出して認識されてしまい警告メッセージをポップアップして一時停止する場合があります。

これらにより正常にデータのバックアップを行えないことがありますので、工場出荷時に以下の手順によって、本体内蔵のマイクロ SD カードスロットを無効化しています。

本体内蔵の SD カードスロットは使用しませんので、無効化しても通常のサーバ動作には支障ありません。

◆ 設定手順

システムユーティリティの BIOS/Platform configuration (RBSU) メニューから
System Options > USB Options > Internal SD Card Slot を「Disabled」に設定。

● ドライブケース使用時の注意事項

本製品と、リアドライブケース N8154-95 / 99、あるいは、ミッドプレーンドライブケース N8154-100 を使用する場合は、以下の設定を変更してください。

◆ 設定手順

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options >
Fan and Thermal Options > Thermal Configuration を「Increased Cooling」に設定してください。

● UPS接続時の注意事項

UPS をシリアルポートに接続して使用する場合は、以下の設定を無効「Disabled」にしてください。

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Serial Port Options > BIOS Serial Console and EMS > BIOS Serial Console Port を「Disabled」に設定してください。
2. System Configuration > BMC Configuration Utility > Setting Options > Serial CLI Status を「Disabled」に設定してください。

● iLOファームウェアv1.30の注意事項

VMware vSphere の監視 > ハードウェア > センサーにおいて、下記のような Heartbeat Lost センサーの警告表示がなされますが、運用上、問題ありません。

[Device] I/O Module (n) LOM_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert

[Device] I/O Module (n) NIC_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert ※n : LAN ポート番号の P1~4 を示す

● 工場出荷時の設定について

以下の項目については、工場出荷時に以下のように設定しています。

1. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile を「Custom」に設定。
2. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Core C-State を「No C-states」に設定。
3. System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options > Minimum Processor Idle Power Package C-State を「No Package States」に設定。

● EXPRESSBUILDERヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの方を優先してください。

● ユーザーズガイドについて

ユーザーズガイドに誤記がありましたので、以下に訂正いたします。

	誤	正
2章 準備 1.10.1 サポートする 最大 DIMM 容量	<ul style="list-style-type: none"> ・ N8100-242Y ... 72GB ・ N8100-243Y ... 232GB 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NF8100-242Y ... 72GB ・ NF8100-243Y ... 232GB
2章 準備 1.10.7 メモリ機能に ついて (1) メモリミラー リング機能	システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations > Advanced Memory Protection」を「Mirrored Memory with Advanced ECC Support」に設定してください。	システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Advanced Memory Protection」を「Mirrored Memory with Advanced ECC Support」に設定してください。
2章 準備 1.10.7 メモリ機能に ついて 2) メモリスペアリング 機能	システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations > Advanced Memory Protection」を「Online Spare with Advanced ECC Support」に設定してください。	システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Advanced Memory Protection」を「Online Spare with Advanced ECC Support」に設定してください。
2章 準備 1.10.7 メモリ機能に ついて (3) フォールトトレラ ントメモリ機能 (ADDDC)	システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations > Advanced Memory Protection」を「Fault Tolerant Memory (ADDDC)」に設定してください。	システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Advanced Memory Protection」を「Fault Tolerant Memory (ADDDC)」に設定してください。

	誤	正																																		
2章 準備 1.22.1 RAID システム 構築時の注意事項	<p>● 各RAID レベルで必要となるハードディスクドライブの台数が異なります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">RAID レベル</th> <th>RAIDシステム構築に必要な となるハードディスク ドライブの最小数</th> </tr> <tr> <th>標準RAIDコントローラー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>RAID 0</td><td>1</td></tr> <tr><td>RAID 1</td><td>2</td></tr> <tr><td>RAID 5</td><td>3</td></tr> <tr><td>RAID 6</td><td>3</td></tr> <tr><td>RAID 10</td><td>4</td></tr> <tr><td>RAID 50</td><td>6</td></tr> <tr><td>RAID 60</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	RAID レベル	RAIDシステム構築に必要な となるハードディスク ドライブの最小数	標準RAIDコントローラー	RAID 0	1	RAID 1	2	RAID 5	3	RAID 6	3	RAID 10	4	RAID 50	6	RAID 60	6	<p>● 各RAID レベルで必要となるハードディスクドライブの台数が異なります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">RAID レベル</th> <th>RAIDシステム構築に必要な となるハードディスク ドライブの最小数</th> </tr> <tr> <th>標準RAIDコントローラー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>RAID 0</td><td>1</td></tr> <tr><td>RAID 1</td><td>2</td></tr> <tr><td>RAID 5</td><td>3</td></tr> <tr><td>RAID 6</td><td>4</td></tr> <tr><td>RAID 10</td><td>4</td></tr> <tr><td>RAID 50</td><td>6</td></tr> <tr><td>RAID 60</td><td>8</td></tr> </tbody> </table>	RAID レベル	RAIDシステム構築に必要な となるハードディスク ドライブの最小数	標準RAIDコントローラー	RAID 0	1	RAID 1	2	RAID 5	3	RAID 6	4	RAID 10	4	RAID 50	6	RAID 60	8
RAID レベル	RAIDシステム構築に必要な となるハードディスク ドライブの最小数																																			
	標準RAIDコントローラー																																			
RAID 0	1																																			
RAID 1	2																																			
RAID 5	3																																			
RAID 6	3																																			
RAID 10	4																																			
RAID 50	6																																			
RAID 60	6																																			
RAID レベル	RAIDシステム構築に必要な となるハードディスク ドライブの最小数																																			
	標準RAIDコントローラー																																			
RAID 0	1																																			
RAID 1	2																																			
RAID 5	3																																			
RAID 6	4																																			
RAID 10	4																																			
RAID 50	6																																			
RAID 60	8																																			
3章 セットアップ 2.4 設定が必要な ケース >メモリ関連 >メモリRAS機能を使う	[System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Oprations] - [Advanced Memory Protection]を設定してください。	[System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options] - [Advanced Memory Protection]を設定してください。																																		
5章 付録 1 仕様 欄外 *2	<ul style="list-style-type: none"> ・ N8100-242Y ... 72GB ・ N8100-243Y ... 232GB 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NF8100-242Y ... 72GB ・ NF8100-243Y ... 232GB 																																		

●メンテナンスガイドについて

メンテナンスガイドに誤記がありましたので、以下に訂正いたします。

	誤	正
2章 便利な機能 1.2.2 BIOS/Platform Configuration (RBSU) (3) Memory Options メニュー	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations」を選択すると、 「Memory Options」メニューが表示されます。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options」を選択すると、 「Memory Options」メニューが表示されます。
2章 便利な機能 1.2.2 BIOS/Platform Configuration (RBSU) (3) Memory Options メニュー (a) Persistent Memory Options メニュー	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > Memory Operations > Persistent Memory Options」を選択すると、 「Persistent Memory Options」メニューが表示されます。	システムユーティリティから、 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Memory Options > Persistent Memory Options」を選択すると、 「Persistent Memory Options」メニューが表示されます。
2章 便利な機能 1.2.2 BIOS/Platform Configuration (RBSU) (8) Power and Performance Options メニュー (e) Advanced Power Optionsメニュー Redundant Power Supply Mode	システムによる電源の冗長構成の処理方法を設定するには、このオプションを使用します。 「Balanced Mode」では、搭載されているすべての無停電電源装置(UPS)間で電源供給を等しく共有します。すべての 「High Efficiency Mode」パラメーターは、スタンバイモードのUPSの半分を低消費電力レベルに保つことで、電源効率の高い動作のほとんどに冗長化電源を提供します。「High Efficiency Mode」のパラメーターでは、スタンバイにするUPSをシステムが選択することを可能にします。 「Auto」では、システムグループ内のセミランダムな分布に基づいて奇数または偶数のUPSをシステムが選択することを可能にします。	システムの電源冗長構成の効率モードの設定を行うには、本オプションを使用します。 「Balanced Mode」では、搭載されている全ての(本モデルは最大2台)の電源間で電源供給を等しく共有します。 「High Efficiency Mode」では、搭載されている片側の電源をスタンバイモードにすることにより、低消費電力レベルを保ち、冗長化電源の効率を向上させます。 「High Efficiency Mode」は、スタンバイモードに設定する電源を電源ユニット番号の「奇数(Odd Supply Standard)」、「偶数(Even Supply Standard)」を選択することで指定することができます。 「Auto」設定では、システムグループ内のセミランダムな分布に基づいて、システムが電源ユニット番号の「奇数」、「偶数」を自動で指定します。

■ 本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター
TEL：0120-5800-72 (2018年11月19日以降) 03-3455-5800 (2018年11月16日まで)
受付時間：9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)
※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2018年 10月 4版



* CBZ-019491-002-02 *